

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000835		
法人名	特定非営利活動法人 すばる		
事業所名	グループホーム すみれ		
所在地	北海道北見市留辺蘂町花丘22番地31		
自己評価作成日	令和5年3月21日	評価結果市町村受理日	令和5年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然の中に囲まれた平屋の木造作りで、温泉街の近くに位置しています。入居者さんの要望によりご家族様に会いに行く支援も行っております。日常生活では入居者の方とスタッフが支えあい生活しておりますので、掃除や洗濯は参加できる入居者の皆さんと一緒にっており、入居者の方達の交流が多く賑やかな雰囲気でご過ごしております。これから介護を目指す海外の技能実習受け入れにも力を入れています。スタッフの年齢も幅広く、様々な角度からその方の生活に寄り添った支援ができます。入居してから終末期まで安心して過ごせるホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlgw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000835-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然が残っている閑静な場所に位置し、木造平屋造りの1ユニットで、平成17年開設となっています。「長い人生の主役です。自分らしく ゆっくりと のんびりと」を理念し、管理者は利用者の動く保証を家族に交渉し了解を得て、生活の自立へ自信を付け生きがいや目標を持ち、自ら自己主張できるように取り組んでいます。結果その日その時できる利用者に事業所全体のモップかけや掃除、洗濯や家事全般をお願いするうちに自発的に”やるよ””できる”などの利用者の声が発せられるようになっていきます。支えるために「管理者は職員に利用者と話し合いをすることを徹底して指導」「職員は利用者の気持ちに寄り添い行動を起こせるように誘導すること」「職員は利用者のできる力を奪わないよう見守りを徹底させ、できないことをさり気なく支援すること」を心掛け指導してます。生活維持能力の維持・向上を目指し歩行能力の低下を防ぐため毎日に体を動かすように体操(ボール投げ、嚙下体操、利用者主導のすみれ体操)を30分程行っています。支所を通じて北見市に外国人技能実習生の実情等の情報提供を行い、介護職員不足の活路を図るため外国人技能実習生受け入れを広げる普及させる取り組みを行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有についてホーム内に掲示し、会議等で理念を共有している。	理念は見やすい場所に掲示されており周知・共有化を図り職員の振り返りを促しています。利用者本位となるように管理者は職員には利用者と同じ向き合い話をするを主として指導しています。パンフレットにも記載されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍もあり外出等や交流等は控えている	コロナ感染防止対策で町内会との事業やイベントは控えています。自治会に加入し令和4年度は会計を努めています。運営推進会議参加の協力を頂いており、認知症のグループホームの事業所として理解・周知に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ブログなどで日々の情報発信を行い地域に向けて認知症の理解や現状について地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議に地域住民代表の出席を得て利用者状況や行事等の報告を行いながら情報・意見交換を行っています。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催は行っているが年6回は満たしておらず、来年度は積極的に行いたい	年4回の運営推進会議は、包括センター担当者、地域住民代表、留辺薬支所担当者等の出席者を得て、利用者状況、行事、ヒヤリハット等の報告を行いながら情報・意見交換を行い運営に活かしています。	運営推進会議を定期的に開催、議事録を家族と共有し運営に反映していく事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に、事業所の状態を報告し、ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。ホームページのブログで日々の暮らしの様子を掲載している。	運営推進会議には、出席を頂きながら利用者の状況や理解に努め、情報交換など良好な関係が構築されています。外部研修などの情報を基に必要な職員に受講するようにしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制廃止委員会の設置とマニュアル等成し、玄関の日に施錠はせず、不安定な入居者の方に対しては、環境を整えるなど、年数回会議を開催し話し合いを行っている。	管理者は職員に日々利用者の体の動きやそれに伴う行動抑制がないように、利用者との交渉(話し合う)を大切に日々支援に努め身体拘束の無い介護に取り組んでいます。ヒヤリハット・事故報告を含め改善方法にも記載し運営推進会議に報告されています。	年4回の身体拘束等適正化のための対策を検討する委員会の会議(抑制廃止委員会)と年2回、研修を定期的に行うことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、言葉の虐待や、身体的虐待、等を全員が理解出来る様再度会議等で周知出来る様努めている。変色等ある時はヒアリハット等に記載し、会議で話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用についての話し合いは行い、この必要性を関係者と話し合いそれらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の結末は入居時と、その都度変更になった場合は、文章と説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望から話し合い、取り決めたコロナ時期であっても居室での面会を行っています。家族全員が携帯を保持しブログにて利用者の近況を見て頂き家族の安心に繋がっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案を聞く機会を設け、職員の意見を反映できている。	月1回の職員会議が開催され、職員の希望や要望を把握し、活発な提案や意見が出され運営に反映しています。タイの技能実習生による伝達研修を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限りの範囲で職場環境・条件等の整備に努め、キャリアアップ制度の改正をシアセッターを制度を取り入れている。給与水準が明確に分かるよう表に示している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格等取得応援できるような環境整備を整えている。技能実習生の受入れによる職員研修と認知症の外部研修には参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流はここ一年難しい状況続いている。3月には同業者の交際交流に参加を予定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には様子をお伝えし、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が必要としている支援を見極め、福祉用具など他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物、台所の片づけなど共に共同して行い入居者の方の助け合いも見守りしながら、関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には、日々の様子をご家族へお伝えし、関係作りに努めている。(職員全員が説明出来るよう努めている)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも気軽にホームに来ていただける様な雰囲気作りに努めている。	お墓参りの希望があり家族の協力を得て支援しています。娘さんの写真を肌身離さず持っている方や好みの栄養ドリンクなどを冷蔵庫から取り出し飲む利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方達の関係がより良好に生活出来る様、余暇時間の工夫や利用者の方同士自然と出来ない事に対してお互い助け合う姿勢を大切にし、見守りながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても何かあればフォロー出来る様、経過を管理側でフォローしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、暮らしの希望に沿って自立した生活が出るよう様々な角度から支援できるように努めている。	職員は利用者に合わせて声掛けを行い、利用者に寄り添い話し合う時間を持つように努めています。利用者同士の話しにも耳を傾けることで、1人ひとりの思いや要望を汲み取りように心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活等は、情報にまとめて、把握出来る様に努めている。都度新しい情報は付け加えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身の状態やできる事の可能性を常に把握し、記録などに残している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者と話し合いながら、現状に即した介護計画を作成している。毎月会議等での話し合いも行っている。	利用者が当たり前の生活が出来るよう自立に向け、意欲に繋がるように支援しています。介護計画に直結するチェック表を日々付けており、利用者の生活改善を適切に努めています。利用者の状況はICT化で一元管理し基本6ヶ月毎の見直しを行っています。利用者の状態の変更がある場合は都度見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子や気づきを記入し、ケアプランに沿って介護が行えているか、毎日チェックしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態に応じて、都度ミーティング等開きサービスの多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食や、買い物等で本人が、力を発揮しながら安全で豊かな暮らしが出来る様支援しているが、限られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方には、馴染みの病院にかかれるよう出来るだけ希望に沿った支援をしている。状態に応じて往診も受ける体制も出来ている。	全員が温根湯診療所で往診を受けており、北見の専門医等の受診は事業所が対応しています。訪問看護は月2回で褥瘡のケアや体調面のアドバイス、24時間体制を整え家族の安心に繋げています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護を受けており、その都度健康管理や、変化について相談し助言や協力体制を作る事が出来ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、利用者の情報提供書で状態を伝え、安心して早期退院出来る様関係づくりに努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを行っており、重度化や終末期に向けて家族、本人、主治医と話し合いチームでケアを行っている。	重度化した場合や終末期に向けた説明を契約時に行い確認し理解を得ています。医師から終末期の利用者・家族に説明がありの本人・家族の意向に沿って再度確認し医療関係機関と連携体制を整え実施しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度ミーティングでの話し合いとマニュアルを作成しているが、救命救急などの定期的な訓練はマニュアルで作成している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は、連絡網等で整備されており、火災避難訓練等にも参加して頂いている。	消防立ち合いのもと、日中・夜間想定で避難誘導を含めた火災訓練をしており、2回目は自主避難訓練を実施しています。土砂災害を想定される事業所で災害マニュアルを整備しています。オール電化の為停電対応でガスコンロや懐中電灯、ポータブルストーブ、食料等の備蓄整備を行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーを尊重し、言葉かけや対応をしている。	一人ひとりを尊重し、トイレなどの誘導はさり気ない声かけで利用者に羞恥心を感じさせないよう行い、パット等は周りにそれとは分らないように持ち運ぶようにしています。管理者は職員に利用者の尊厳を守るように、話しをするように指導しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのようにしたいか希望を必ず聞いて自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり全員は難しいが、その日をどのように過ごしたいか、促しかけて希望に沿うよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう、髪型や服装には気をつけ支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に片付けや、食事を共に行っており、好みに応じて食事内容を変更するなど楽しく食事が出来る様工夫をしている。誕生会やイベント等では楽しめるよう工夫している。	厨房担当者が月別で献立を作成し、その日その時に出来る利用者へ盛り付け・配膳、食器洗いなどをお願いしています。旬の野菜や山菜などの差し入れもあり、利用者の体調・状況によりお粥、刻み食等の提供や気温変化によるメニューの変更を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などは温度板で把握しており、状態に応じてお粥や、食事形態を変えるなど柔軟な対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握しており毎食後、口腔ケアを促しており、誤嚥や口腔内のトラブルがないように努めている。口腔ケアも出来るだけ自立して出来る様支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗が少なくなるよう、トイレでの自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、自ら行く利用者も数名おりますが、職員は利用者の排泄パターンを把握し、誘導しトイレで排泄出来るよう支援しています。利用者の中には心理的に昼夜問わずポータブルトイレを使用する方、夜間は利用者の安全を図るためセンサーを活用されている方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、全員の排便状態の確認をし運動、医師、ご家族と相談しながら予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では、自立して入浴できる方は少ない、週2回以上は入浴出来る様工夫している。	週2回を基本とし入浴しています。気持ちよく入浴して貰えるよう、本人のタイミングやペースに合わせてゆったりと入浴を楽しめるように支援しています。中には歌を歌われる利用者もいます。入浴拒否の場合は無理強いせず気分転換を図ったり曜日、職員の変更を行い支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠状態を温度板で把握し、対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋を別途用意しており、何時でも確認出来るようになっている。服薬のマニュアルも用意している。事故が発生した時は早急に対策し、再発防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事や誕生会など、特に食事を楽しみにしている方が多く、思い出に残るような食事メニュー等の工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ一年コロナの影響でほぼ外出できていない。	日常的な散歩等の外出はほとんどできていませんが、利用者の希望で職員と一緒に温泉に出掛けたり、住んでいた場所や買い物の同行など個別に行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族には、入居者の方の自己管理で、紛失しても良い金額で了解を頂き自室でお預かりしている。買い物へ行ける入居者の方は見守りで行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員を通じて、電話やお手紙のやり取りが出来るよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱が無いように壁紙や光に気を使い、心地よく過ごせるよう努めている。	居間は広くゆったりと寛げる空間になっており、ソファやテレビなどが配置され、新聞を読んだり休んだり体操、ゲームをしたりと思いに利用者一人ひとりが穏やかに過ごせ安心できる居場所であるように工夫しています。不穏になりやすい利用者のため、写真や飾り付けなどはしていませんが、イベントなどの飾りはその都度飾り不安にならないよう心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士で過ごせるよう、入居者の方の関係性に配慮しながら、ソファの席へご案内をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物で安心して過ごせるよう、ベッドと福祉用具以外は今まで使用していた物を用意して頂いている。思い出の写真等も飾っている。	居室には使い慣れたベッドやタンス等が置かれ、家族・孫の写真などが飾られその人らしく生活できるように配置されています。収納し易いクローゼットやベッドが備え付けられています。誕生カードやイベントの写真を飾る利用者もおり、個人個人に合わせた支援を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、出来るだけ自立した生活を送れるよう季節の飾りや手すりなど、必要に応じて福祉用具を使用している。		